

アジアこども学科概念

アジアこども学科では、国際社会でこども学を活かすことができる人材形成を目指します。こども学の専門知識はもちろん、アジアにおけるビジネス環境を学び、実際に国際交流を行うことで、他国の文化、歴史、社会を理解し、多様な価値観やグローバルな視点を身に付けていきます。

年次ごとの特徴

「アジアこども学科」では、経済成長著しい中国やインド、タイなど、アジアの子どもを取り巻くさまざまな問題を探究します。

1 学年 25 人と少人数制を採用しているため、基本からじっくりと学ぶことができます。

1 年次では、こども学や国際関係論、語学等の基礎知識を学び、各学問分野の視点を身につけます。

2 年次では、より具体的にアジアの国々の政治、経済、社会、文化などを多層的に学びます。また、実際にアジアの他国で行われる必修科目『アジアこども学研修』を通じて、自ら見聞を広め、『日本におけるアジア・アジアにおける日本』を考えます。

3・4 年次では、経済学・経営学、国際社会・文化論、語学等のゼミに分かれ、ビジネスや各国情勢、国際貢献など、自らの専門性をさらに高め、卒業後の活躍に備えます。

必修の海外研修

海外の企業、教育施設を見学し、その国の文化、歴史、社会を実践的に学びます。この異文化体験は国際的な視野に立って、世界の中の日本、そして自分という人間を考える貴重な学習機会となります。

費用は学費に含まれているため、2 年生は全員参加します。

海外協定校

中国の南京曉莊学院とタイのシーパトゥム大学と交流協定を締結しています。

その他の海外研修科目

アジア地域文化研修では、履修する学生が語学や文化の短期留学先を選び、留学、フィールドワーク、そして本学での講義によって単位を取得します。3 年次科目で、費用は学生負担です。

その他に、海外の集中英語コースで勉強する英語短期語学留学ⅠとⅡもあり、留学を終えて更に英語を磨きたい学生のために上級英語という科目があります。

代表的な科目

代表的な科目を2つご紹介します。『こども製品開発とビジネス』の目的は「もし、あなたがこども製品の開発者になったら、まず最初に何をすべきか？」について考えることにあります。過去に成功した製品、失敗した製品などを見ながら、こども製品のビジネスについて考えていきます。また、工場見学なども行い、現場で苦労している方のお話も伺います。

次は『アジアの中の日本』という科目です。グローバル化する現在、世界各国、とりわけ身近にあるアジア諸国と地域の事情を知ることは不可欠です。それと同時に、アジアの人々が日本及び日本人をどのように見ていたのか、あるいは見ているのか、アジアの中に置ける日本の位置を考え、アジア諸国の学習と理解につなげ、これからの日本のあり方を考察する科目です。

この2科目以外に、『アジアこども学』、『アジアの政治、経済と宗教』、『アジアの社会』、『国際協力とボランティア』、『国際平和論』、『アジアのこども産業』、『日本企業とアジア社会』、『少子高齢化とアジア社会』、『アジアの食生活』、『アジアの環境問題』、『アジアのこどもの遊び』などもあります。

語学

英語、中国語、韓国語、日本語（留学生対象）のカリキュラムが充実し、下記のように各種語学検定試験取得の支援も強化しています。

<p>オーラルコミュニケーション英語Ⅰ～Ⅳ 基礎専門英語Ⅰ～Ⅳ 英語語学短期留学Ⅰ～Ⅱ 上級英語</p>	<p>TOEIC-IP オーラルコミュニケーションテスト会場認定校。 英語を必要とする就職。</p>
<p>中国語Ⅰ～Ⅳ</p>	<p>入門から中国語検定、HSK受験まで幅広く対応。</p>
<p>韓国語Ⅰ～Ⅳ</p>	<p>入門から韓国語検定受験まで丁寧に対応。</p>
<p>日本語Ⅰab～Ⅳab 日本概論 a b 日本文化論 a b 異文化コミュニケーション論 日本研究入門 日本語学入門 日本芸術入門 日本のことばと文学 ビジネス表現Ⅰ・Ⅱ 日本語時事社会Ⅰ・Ⅱ 国際協力とボランティア 日本研究 日本語学 日本芸術 商業作文Ⅰ・Ⅱ プレゼンテーションⅠ・Ⅱ 国際交流 アジアの中の日本</p>	<p>留学生対象。日本語能力試験N1合格を目標。</p>

取得できる資格

他学科受講により取得

1. 小学校教諭1種免許状
2. 社会福祉主事任用資格
3. 児童指導員任用資格